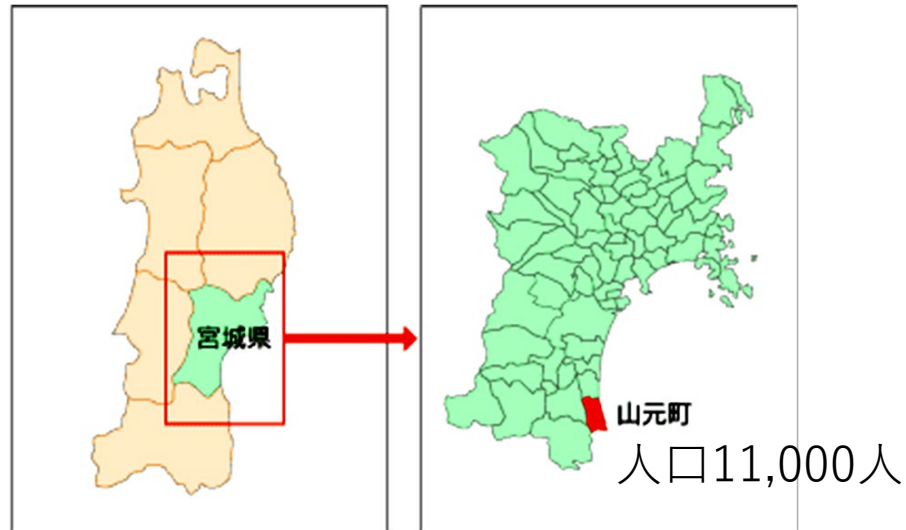


障害のある人もない人も 共に学び、生きる

宮城県山元町 NPO法人ポラリスの活動



NPO法人ポラリス 田口ひろみ

(自己紹介)

田口 ひろみ

1991年（H3） 仙台市から山元町へ移住

1998年（H10） 町設立の精神障害者授産施設に勤務

2000年（H12） 山元町社会福祉協議会職員（障害者支援を継続）

2011年（H23） 東日本大震災（避難時巡回～施設再開～活動の立て直し）

2015年（H27） NPO法人ポラリス設立 代表理事（～現在）

精神保健福祉士・社会教育士

震災で気づかされた、 日常の中の「つながり」の大切さ。



震災直後の被災状況



仮設住宅



災害公営住宅

障害者権利条約の批准（2014年）



障害のある人が

自己決定・自己選択をする権利が
保障される時代になりました。

批准から10年あまり・・・

地域での理解と実現は、まだ途上。

震災からの復興と、これからの地域づくり

立場をこえて、

理解し合い、つながり、支え合える地域へ。

NPO法人ポラリス設立（2015年）

地域全体をフィールドに、

「はたらく」「たのしむ」「まなぶ」



は た ら く



た の し む



ま な ぶ

20代から70代までの知的障害、発達障害、精神障害のある方々。

障害者就労継続支援B型事業

(定員20名)

目指しているのは

「働くこと」や「自立すること」



特産品いちごの箱組み立て



スーパー店頭での資源物集め



葬祭会館への花の搬入作業

アトリエ開設（2016年）



近所の民家を借りてアトリエを開設。
「アート＆ケア」の活動からスタート。創作活動と心のケアの場に。

壁画「Happyやまのもと」 (2016年)



アートワークショップ



壁画「Happyやまのもと」 (高さ2m×長さ33m)

障害者が地域文化に参加 (山元が元気になるアート)
アートを通じて地域とつながる機会づくり

ポラリスカフェ（2018年）



町の施設が再建され、

さらに、
山元町防災・交流センターが
新たにできた！

障害のある人も気軽に使える場所へ

公共施設：「町にあるもの」を活用した学びの場づくり

文科省実践研究

「山元こぐまサロン」 (2021年～2023年)



障害者を中心に置くことで、地域の優しさが広がる

「山元こぐまサロン」実施体制



行政 × NPO × 地域 : 共創プロジェクトのはじまり

楽しく学べるプログラムの開発



「インドのお兄さんと話そう」など、楽しく学べる企画を実施。

特別支援学校とのアート交流



支援学校の生徒とアートで交流。
卒業後も学びが続くよう保護者と対話。



町の生涯学習プログラムへの参加（2023年～）



地域の人と楽しくリフレッシュ。

主催：山元町 （2025年～）




山元町ユニバーサルな学びの場づくり事業


「うたで学ぼう平和のこと」

利用者の声

①40代女性

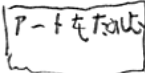
ひろくさんのほあい (42)

はじめは、 1はじめは、あさい、さどうをなら、ていました
おうち

10年昔から  電車で通勤、なかまとしてあってうれしい、



やすまず、おそろいとか園芸とかは、いありとか、^{仕事}アツアツ自信をける

 ^{パートをたのむ} → 糸会を描くしゅう、売れる!! みんなにみせよう、てみんなに
よろこんでもらううねし

山元くまサロシ

くまなか > わからないい、もしももんできた

、むずかしかったけど、^{失知、}いろんな入といっしょにおべんもいうて、

土域のしらながた、入とながきしになってホリス以外でも
地域の中であはなしできるようになった、



今は HIP HOPに週1回自分でいくのがたのしみ
これからもみんなでいろんなことやりたい



(ペンネーム)ダイナマイトさくらい47さい
20代の時に交通事故で頭部外傷
後遺症になって今はボラリスで
はもうくことをめざしている。

② 記憶障害のある40代男性

〈 どうして「楽しむ事」が大事か？ 〉

人はいきぬき が大事だと思うから

人間には息ぬき (リフレッシュ) 大事

リフレッシュするとやる気がでてくる

〈 どうして「まなびなう」こと大事？ 〉

自分がやったことのわからないこと

が多かったとれもしる事ができた

今もまだまだまなびたい

わからないことが少しずつわかるように

なると自分に役立って少し人生が

楽しくなるそうするとはたらくことも

やってみようと思う



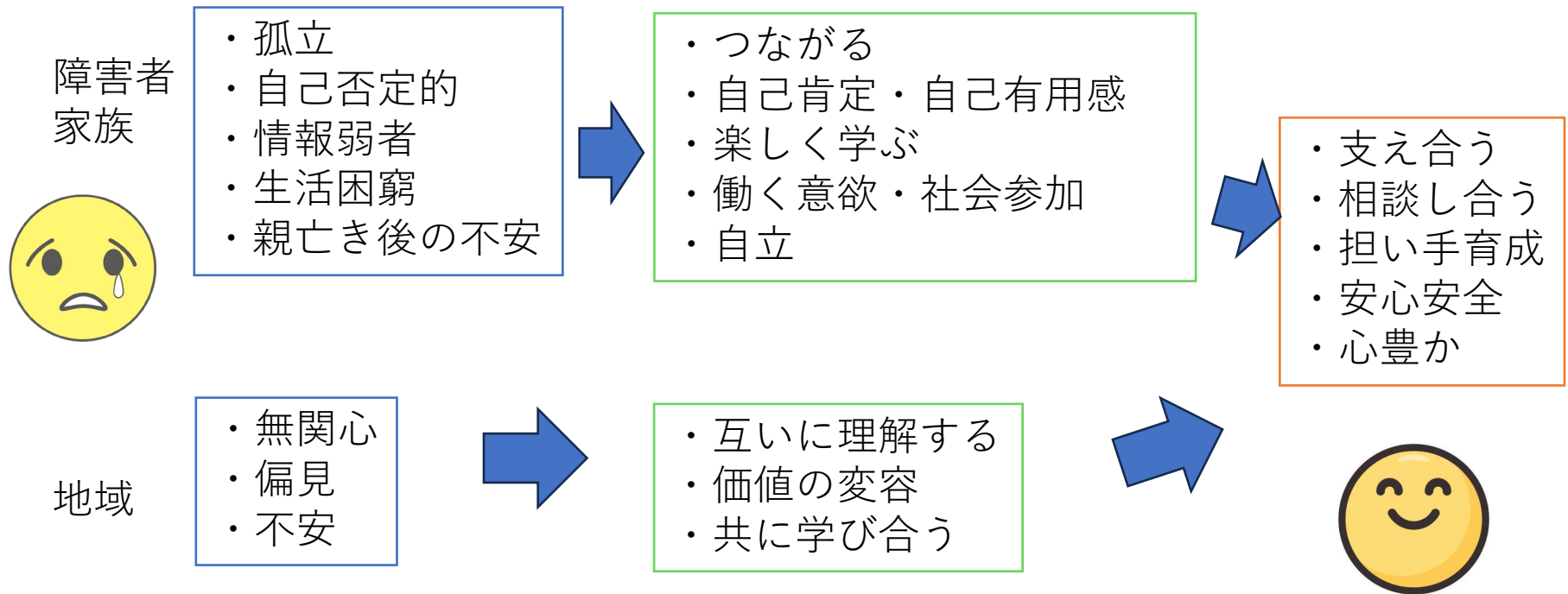
◎他の参加者の声もまとめると、

- ・今まで知らなかったことを新たに知る・出来るようになることのうれしさ。
- ・地域の中で声をかけてくれたり、一緒に楽しいことをしてみたりするのが楽しい、うれしい。
- ・自宅以外にも居場所がほしい。そういうところが増えたらいいな。

◎保護者の感想の一部

- ・娘は、笑顔だけが挨拶だったが、言葉であいさつ、ちょっと会話ができるようになって少し前進かな？
- ・皆の前で自分の名前や思っている事を発表できたことは、親としてはびっくりした。
- ・サロンに参加した人が、名前まではわからなくても顔を覚えてくださって、地域の中で挨拶できるようになった。

障害福祉 × 社会教育がつなぐ「共に生きる社会」



「学び」が、人と地域をやさしくつないでいく。

障害のある人もない人も 共に学び、生きる

宮城県山元町 NPO法人ポラリスの活動

